

会 議 記 録 (概要)

会 議 名	令和3年度第1回三田市立図書館運営評価委員会
日 時	令和3年7月19日(月) 18時00分から19時35分
場 所	三田市立図書館コミュニティホール
出席委員	馬込委員長、有川副委員長、井上委員、尾上委員、佐藤委員、富岡委員
指定管理者	図書館流通センター関西支社 岸本、塚畑、東図書館長、橋上分館長
事 務 局	甲斐地域創生部長 曾根市民協働室長 (以下、部・室名を省略) 横溝文化スポーツ課長、森鼻係長、山本
傍 聴 者	1人
添 付 資 料	次第、資料1～4

会議概要

1 開会

会議の招集・成立について

定員の過半数を超える出席につき成立

2 あいさつ

甲斐地域創生部長あいさつ

3 前回の振り返り

(館長より説明)

- ・前回の委員会でいただいたご意見について4点ご報告させていただく。
- ・移動図書館のアウトリーチについて積極的に広報を行ってはどうかというご意見をいただいた。6月の小中学校図書館教育担当者会にて、図書館見学に代わるものとして、1時限を使った1つのパッケージを紹介させていただいた。また、有馬富士公園20周年の記念事業の一つとして“森の図書館”にも参加予定。
- ・2点目、学習席の利用者をいかに書架に導くかについて、学習や仕事をしに来ている人の興味を引くような展示を2階に設置し、利用者の反応を見て行きたい。
- ・3点目、広報について記者提供も積極的に取り組んでいくよう提案を受けた。毎月、図書館からも直接、取組みや取り上げてもらいたい事項を積極的に記者提供していくことにした。
- ・4点目、電子図書館の年代別利用統計4～6月分がまとまったので報告する。添付資料の通り、年代別では、小学生と30～50才代の大人の利用が多い。これは4月に全小学校に配布した電子図書館案内の効果がでてしていると推察している。お子さんから保護者の世代に広がっているのも大きな効果。貸出数は5月には直近の2倍以上の数字になった。この流れを途絶えさせないようにしっかりと広報を続けたい。

委員長：前回の協議について振り返りをさせていただけるのは、意見した委員として甲斐

がある。

委員：電子図書館の利用について、13～18才（中高生）が少ないのは残念。委員会で考えていくべき課題。

副委員長：10～20代が少ないのは資料がないのか、登録者数が少ないのか。

委員長：電子図書館の案内を小学校にさせていただいた効果が出ている。高校に働きかける方法はないか。

委員：小学校を通じて全児童にチラシを配布いただいたので、興味のある子どもと親が反応した。

委員長：ヤングアダルトコーナーの一角を三田学園さんがやっているような感じで、電子図書館も中高生がプロデュースしたようなものをツイッターで広めるなど働きかける方法があるのでは。

委員：中学生にもくばると効果的かも。

委員長：大学にも案内できるか。

副委員長：大学図書館には文学が少ないので補完できるかもしれない。

委員：今はネットで調べる環境があるのでニーズにあっていないのでは。一方で図書館のレファレンスサービスが注目されている。本はネット上の情報より信頼性が高いのが魅力。そこを図書館の特色として打ち出せればよいのでは。

委員：電子図書館との連携を考えるべき。

委員：情報の入手方法が充実しすぎているので、若い人は特にサブスクリプションなどに時間を費やしてしまう。

委員長：読書が面白いという方向に持っていきたい。一方で書店では個人のための選書サービスも人気と聞くので、本を読む人と読まない人が二極化している。ニーズも踏まえつつ電子図書館を改めて考えるきっかけになった。

委員：自分のニーズにあった本を探すのは難しい。コンシェルジュ的なサービスが欲しい。

委員：伊丹の書店で本を買ったとき「この本も好きかも」という本のおすすめメモがついていた。

委員：ネットショップにはAIを活用した類似のサービスがある。

4 報告事項

(1) 令和2年度委員モニタリングの結果について

(資料2に基づき、事務局より説明)

委員長：市の事務局担当として、特に気になった点は？

事務局：福祉施設への広報、学習席利用者への働きかけ、市役所との連携等、つなぐという部分を委員の皆さんが評価対象とされていると感じた。

委員長：委員の皆さんはどう感じられたか。

副委員長：連携は大事なキーワード。特にコロナ禍での活用などITの重要性もモニタリングで指摘した。電子図書館については広くまんべんなくというより、ターゲット層をしばったほうが効果的な戦略ではないか。

委員：ターゲットに合う広報の方法を検討するのが大事。

委員：興味のある人は自ら情報を取りに来る。興味がない人への関りをどうするか。市広報の図書館のページ数が少ない。定例の内容なので、物足りない。

委員：全世代にまんべんなく使ってもらうのは難しい。今回のような取組で小学生が電子図書館を認知すれば、成長する過程で将来的な効果が期待できる。

委員長：釜石市の防災訓練の例でも小学生への教育により効果を得た。

委員：キャンプ募集のチラシをコンビニに置いたり、ネット発信したところ中高生の参加が増えた。お知らせのツールに工夫が必要。

委員：学校司書や図書館教育担当者と図書館で意見交換の機会を持つなどしている。調べ学習や電子図書館、パスファインダーなどの取組を通じ、図書館と小中学校がつながるようにしたい。学校の先生の理解も促していけるよう働きかけられるようにしたい。

委員長：図書館は生涯学習施設。社会教育、学校教育、家庭教育、この3つがあってはじめて人は育ち、地域が豊かになる。市役所と連携して、窓口での困りごと解決に図書館を利用できないかと考えた。窓口での相談と合わせて、参考になるブックリストを作って、市の窓口で提示することで相談者が自ら考える一助にしたい。市の障害福祉課に声をかけて困りごとをリスト化してもらった。発語の遅れの相談が多い。図書館が多面的に役立つという位置づけにしていきたい。

委員：子どもたちも分からない事や困り事はネットで調べたり、友達に聞いたりしているが、ネット情報にはフェイクがあるので、図書館の信頼性は魅力。

委員長：三田市で困ったことがあれば図書館へとなるのが理想。市役所も図書館を頼りにするようになると思う。「三田モデル」としたい。

(2) 令和3年度事業計画について

(資料3に基づき、館長より説明)

委員：調べる学習の案内パンフレットはあるか

館長：小中学校を通じて全生徒にお渡ししている。

委員：パスファインダーのテーマは誰が考えているのか。

館長：図書館である。

委員：ニーズの把握が必要。

委員：担当教諭が意見交換等で、学校で取り組むテーマ等をお伝えしている。調べる学習は校長会でも図書館から説明いただいている。

委員：書店の展示コーナーで渋沢栄一などを特集しているが、図書館でもそういった時機にあった展示はするのか。

館長：コーナーはまだない。検討する。

委員：オリンピックもテーマになるのでは。

副委員長：パラリンピックも、障害者共生も。書架のピクトサインは昨年導入の報告があった。

委員：子どもの読書推進の具体的な案はどのようなものか。

館長：プログラミングは今回初めて、他は例年行っている事業である。

委員：市内には技術を持った人が大勢おられるはずだが、そういう人の活用を検討でき

ないか。

委員長：人材バンクはないのか。

事務局：以前は達人録があったが、マッチングが難しい状況であった。

委員：特定の分野について募集する方が良いかもしれない。

委員：スタッフ向けにAED講習を実施されているが、地震等、防災の研修も必要。

委員：今回報告された事業計画に学校が連携できることが多くあるので考えていきたい。

委員長：知的障害者施設との連携も考えて欲しい。ニーズがあると思うので、案内だけでもお願いしたい。

5 その他

(1) 令和3年度委員モニタリングの実施について

(資料4に基づき、事務局より説明)

- ・重点項目は、指定管理者が重点取り組みとしている「図書館内外への図書館情報の発信」とさせていただく。
- ・評価シートの提出は、次回3月開催予定の委員会後の3月末でお願いしたい。

<19時35分閉会>